

## 特別活動部

部長：河田      副部長：大橋

### (1) 今年度の目標

- ① 生徒会の自主的、自律的な企画・運営
- ② ホームルーム委員会，研修ホームルームの活性化
- ③ ボランティア活動の活性化
- ④ 部活動を通して，規則を守り礼儀正しく，お互い協力し助け合う豊かな人間の形成

### (2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
  - ア 大勢の新入生の自由役員獲得を目指す
  - イ 教員・一般生徒との連絡を密にとる
  - ウ 生徒会室の整備とデータ・資料の整理
- ② 研修ホームルームの活性化に向けて
  - ア 事前指導の充実
  - イ ホームルーム委員の運営力育成に向けての担任との連携強化
  - ウ ディベート講習会を通しての実践
- ③ ボランティア活動の活性化に向けて
  - ア 丸養交流会事前研修の充実
  - イ 斯文祭「ふれあいの部屋」での周知活動
  - ウ 地域のボランティア活動（募金等）に積極的な参加をめざす
- ④ 規則を守り礼儀正しく，お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて
  - ア 校則や集団の決まりを守らせ，所属感や連帯感を身につけさせる
  - イ 挨拶や美化活動等を，自主的，自発的に行う態度や習慣を身につけさせる

### (3) 成果

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
  - ア 1年生の自由役員が2年生より10名ほど多い25名で活動しており、人手不足は解消されつつある。各行事において、2年生のパートリーダーを中心に自由役員が各パートに分かれて、計画的かつ精力的に準備に取り組んでいる。また、文化祭の準備においては、パートごとに進捗状況を確認する会議に生徒会担当者も参加することで、学校側との意見の擦り合わせもうまくできた。
  - イ 一般生徒への連絡に関しては，各クラス・各部活動への周知会で連絡事項の徹底をお願いした。生徒会連絡黒板を有効に活用するようにした。また，教員への連絡は担当者を決め，必ず事前に相談するように徹底した、さらに、職員全体には

会の実施や提出書類の締め切り日について日報を通じてあらかじめ周知するようにした。

ウ 生徒会室の美化に努め、道具や備品の整理や行事ごとの資料の整理を徹底させた。

## ② 研修HRの活性化に向けて

ア 昨年同様に、事前のHR委員会で、各クラスが授業案のプレゼンテーションを行った。質疑応答を通して展開案を再考した後、担任の先生と打ち合わせやリハーサルを行うことは、HR委員の意識の向上に繋がっている。取り組みの深さはクラスによって異なるが、準備段階での入念な取り組みが本番での優れた実践に繋がることを生徒自身が実感している。

イ 各担任の先生に個別に声をかけ、事前の生徒の展開案の検討、当日の助言をお願いした。人権感覚に配慮することを忘れず、生徒の主体性を尊重しながら積極的に関わっていただけた。また、個別にお話を伺うことで、HR運営上の検討すべき課題や率直な意見を頂くことができた。

ウ 1年生は各クラスのHR委員の代表者が、事前に講師の先生から指導を受けた後、模擬ディベートを行った。この代表者の取り組みは、大変積極的で、生徒が楽しみながら活動する様子が伺えた。そういった雰囲気全体に伝わり、1年生全体として活気ある研修に繋がった。

## ③ ボランティア活動の活性化

ア 今年度も人権・同和教育主任と香川丸亀養護学校より異動して来られた先生に講師をお願いして、事前研修会を開いた。両校にとっての交流会の意義を明確にすることができたので、参加者の取り組み方がさらに充実したものになった。交流会を終えての感想文にも、今回の活動を通して得たことを、今後の自分達の生き方にどのように生かしていくかについてふれたものも多く、各々がボランティア活動を続けていくためのよいきっかけとすることができた。

また、昨年度に引き続き、「丸養まつり」にボランティアとして参加することができた。「丸養まつり」についても事前研修会を行い、各クラスでふれあい委員より周知活動を行う機会を作ったことにより、活動に対する理解をより深めることができ、どの生徒も主体的に活動に取り組んでいた。

イ ふれあい委員会の活動を知ってもらうために、交流会の様子について展示するとともに、放送部制作のDVDを流し、参加していない生徒にもわかりやすい周知を心がけた。また丸養からは高等部の各作業班の作品と作業内容の紹介パネルをお借りして展示し、紹介した。

特別展示としては、同じ高校生が行っているボランティア活動として、琴平高校のとらすとKの活動を紹介した。同じ県内の同世代の生徒の活動であるため、委

員会の生徒は関心をもって展示に取り組む事ができた。また、本校卒業生で東日本大震災後の東北の様子を撮り続けていらっしゃる写真家の平井慶介氏の写真もお借りして展示することができた。

ウ 赤い羽根募金、書きそんじハガキ・キャンペーン、心のとも運動（2月実施予定）などの活動において、ふれあい委員がクラスに周知・取りまとめを行った。また、「お城祭り」「なつボラ」「まるがめ子育てフェスタ」などに希望者が参加した。その他、学校へ届いた案内を随時周知したが、あまり積極的に参加できたとはいえない。

④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間

ア 運動部、文化部の部長会を実施し、校則や集団の決まりについての確認など意識づけを行った。各部長が部内で会の内容を伝達することで、考える機会を設けることができた。

イ 運動部、文化部の部長会を実施し、各部で行っている挨拶や美化活動の意義などについての確認を行い、意識づけを行った。各部長が部内で会の内容を伝達することで、考える機会を設けることができた。

(4) 課題と次年度に向けての改善策

① ア 1年生の自由役員が仕事の全体像を掴み、パートリーダーとしての力量を備えるように2年生が中心となり指導していく。そのためにパートリーダーが一人で仕事を抱えるのではなく、パートメンバーと分担し、適宜、会を開くなどして計画に修正を加えていきながら活動させる。

イ 役員全員参加の会をもち、意思統一を図る。運動会や斯文祭等、学校行事の運営については入念に引き継ぎを行い、早めに計画を立てさせ、各クラス・各部活動の準備が円滑に進むように生徒会が指導する。計画的に理事会を開催する。

ウ 資料の整理とデータの保存を徹底させる。データベースと紙ベースの両方を整理して保存させる。

② ア 笑いや楽しむこと自体が主たる内容となる傾向が見られていたが、担任の先生や研修ホームルームを参観された先生方の意見や助言を頂くことで、その原因の分析や改善方法が検討できた。

次年度に向けて以下3点について改善を考える。

- ・例示する展開案の再考（議論よりも楽しむ要素の例が多い。）
- ・絞ったテーマの中で生徒の主体性を発揮させる（自由度が高すぎる）

・担任の先生方が研修ホームルームを参観できる日程調整

イ 団会の活用が十分できなかったので、団会を活用し、学年団の意見を収集すると共に、取り組みについて共通理解を図る。

ウ 模擬ディベートを実施により、ホームルーム委員を中心とした段階的な学習ができた。興味の深い生徒が多いが、発言する際の声量や話し方や見せ方は当然ながら経験不足である。継続して取り組むことで、より充実した取り組みが期待できるため、次年度の計画に取り入れるよう検討する。

③ ア 今後も事前研修会を行って、積極的に取り組ませたい。

イ ふれあいの部屋そのものについての周知活動をし、より多くの生徒に関心をもって展示に足を運んでもらえるよう工夫していきたい。

ウ ボランティア参加募集の案内については、次年度も引き続き、行事や部活動との兼ね合いを考慮しながら、参加可能なものを管理職と協議し精選の上、全員を対象として周知したい。また、募金活動などでは、ふれあい委員に回収袋を作成させるなどして、ボランティア活動活性化の役割を担う自覚を促したい。

④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間

ア 部長会などで発信する機会を計画的に実施することが必要だと感じた。また、その後の取り組みや振り返り、部長間の情報交換、また、顧問との連携などが課題である。今後は、学期に1回、部長会を開催することとし、生徒が主体となって目標や実践事項を決め各部への周知や呼びかけなどを行う。また、部長会で取り上げる議題については、部員や顧問からも広く意見を聞き、部活動を通したよりよい人間形成ができるよう計画していく。

イ 挨拶や美化活動を自主的、自発的に行うためには、生徒自身はその意義についてきちんと理解する必要があると思う。今後は、学期に1回、部長会を開催することとし、生徒が主体となって目標や実践事項を決め各部への周知や呼びかけなどを行う。また、部長会で取り上げる議題については、部員や顧問からも広く意見を聞き、部活動を通したよりよい人間形成ができるよう計画していく。